

【目的】 現在、ダイエットの失敗による拒食症、過食症に悩む女性が多いという。ファッションへの意識の高まりに乗じて、着手である現代女性は作り手の要求する身体サイズ・ラインに脅迫されているのである。しかし、現代社会において値段・手間・センスを考慮すれば、日常着は既製服を着るのは当然であろう。この現状を理解しつつも、現代女性が「脅迫観念」からの解放を提供できないものだろうか。

【方法】 和服を着る手順の中で、つかの間でも身体サイズ・ラインの「脅迫観念」を解消することが可能である。ところが現状の和服はフォーマル化・高級化し、作り手の技術・芸術性ばかりに焦点があたる。本作品では、着手である現代女性の気分を重視する和服のイメージ図を提案し、和服をより身近な衣服に感じさせる。

【結果・考察】 日本において、「洋服」と呼ばれる現代の服が一般女性に普及したのは戦後である。既製服の向上、女性の社会進出など様々な要因が重なったことであろうが、とにかく、日本女性は和服を脱ぎ「洋服」になじんでしまった。その結果、和服の特長は短所にしか見えなくなる。例えば、身体の形態をかたどった鞆に身体をすべりこませるだけの現代服とちがって、和服には、着手が自分自身の身体の凸凹に従って「布」を紐で固定していく手順がある。ところがその手順は手間と時間のかかるものとして敬遠されてしまった。だが、一人ひとり異なる着手の身体に柔軟に対応する和服は、それを着る手順の中で、着手は自分の身体が衣服に受け入れられていく様を実感でき、「脅迫観念」から解放することができるのだ。